

2022 年第 2 週(1 月 10 日~1 月 16 日)

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

感染症発生動向調査

名古屋市感染症発生動向調査情報

名古屋市感染症情報センター（名古屋市衛生研究所疫学情報部）

2022 年（令和 4 年）1 月 19 日作成

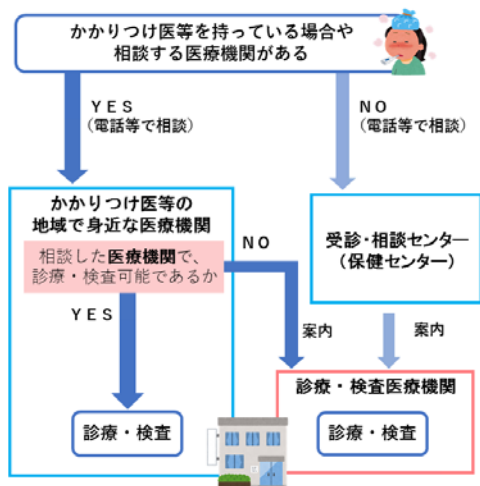
<http://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/15-7-3-3-0-0-0-0-0-0.html>

◆新型コロナウイルス感染症について

- 令和4年1月18日現在までに、名古屋市内では47,999人の新型コロナウイルス感染者（再陽性患者件数を含む）が確認され、市内における新型コロナウイルスに関連した死亡者は473人となっています。2022年第2週の一週間当たりの新規陽性者数は2135人で前週の456人から急増しています。
- 発熱等の症状がある場合には、まずは、かかりつけ医等の地域の医療機関に電話等でご相談ください。事前に相談なく、直接受診することは避けてください。かかりつけ医をもたないなど、相談先に迷う場合は、「受診・相談センター」（コールセンター）にご相談ください。
- 「受診・相談センター」（コールセンター）の詳細については、下記の本市公式ウェブサイト等をご覧ください。

発熱等の症状がある場合の相談・受診方法（名古屋市）

<http://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000133973.html>



(出典：名古屋市HPより)

受診・相談センター（コールセンター）

次の場合等にはご相談ください。

▶発熱等の症状がある方の受診に関する相談

受診に迷う、どの医療機関に受診すればよいか分からないとき 等

▶新型コロナウイルス感染症の症状、検査、消毒方法等の相談

▶療養後も続く症状（いわゆる後遺症）についての相談

○受付時間 24時間体制

○電話番号 050-3614-0741

○メールアドレス nagoya_iyushinsoudan@medi-staffsup.com

OFAX番号 050-8882-9703

聴覚に障害がある方をはじめ、電話でのご相談が難しい方はメールまたはFAXをご利用ください。

- ・ 令和3年12月20日（月）午前9時から、受診・相談センター（コールセンター）の電話番号とFAX 番号が新しく変わりました。
 - ・ 電話番号 050-3614-0741
 - ・ FAX 番号 050-8882-9703

- 新型コロナウイルス感染症の詳細な情報については下記リンク等をご覧ください。
新型コロナウイルス感染症について（厚生労働省）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html
新型コロナウイルス感染症について（名古屋市）
<http://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000124556.html>
- 名古屋市及び愛知県における新型コロナウイルスの発生状況の詳細については下記リンクより記者発表資料をご覧ください。
市内の新型コロナウイルス発生状況（名古屋市）
<http://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000126920.html>
愛知県新型コロナウイルス感染症対策サイト（愛知県）
<https://www.pref.aichi.jp/site/covid19-aichi/>

〔まん延防止等重点措置及び「嚴重警戒」での感染防止対策〕

- 令和4年1月18日現在、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づき、まん延防止等重点措置が広島県、山口県及び沖縄県に対し令和4年1月9日から1月31日まで実施されています。最新の情報については下記のリンクをご覧ください。
 - 基本的対処方針に基づく対応（内閣官房）
<https://corona.go.jp/emergency/>
- 令和4年1月18日現在、本県では第6波・感染急拡大の抑制に向け、「嚴重警戒」での感染防止対策が実施されています。最新の情報については下記のリンクをご覧ください。
 - 県民・事業者の皆様へのメッセージ（愛知県）
<https://www.pref.aichi.jp/site/covid19-aichi/covid19-aichi.html>

「厳重警戒」での感染防止対策						
県民	①外出の注意点	混雑した場所や感染リスクが高い場所を避けて				
	②県をまたぐ移動の注意点	県をまたぐ不要不急の移動は控えて				
	③高齢者等への感染拡大の防止	高齢者・基礎疾患のある方に配慮				
	④基本的な感染防止対策の徹底	感染しない・感染させない				
事業者	⑤飲食店等に対する協力要請	手指消毒、マスク着用、施設換気の徹底				
	⑥業種別ガイドラインの遵守等	全ての施設で感染防止対策を自己点検				
	⑦テレワークの推進等	テレワークやローテーション勤務の推進				
	⑧職場クラスターを防ぐ感染防止対策	休憩室等での注意を周知				
その他	⑨イベントの開催制限等	<table><tr><td>感染防止安全計画策定イベント</td><td>収容定員まで</td></tr><tr><td>その他のイベント</td><td>5,000人又は収容定員50%以内のいずれか大きい方</td></tr></table>	感染防止安全計画策定イベント	収容定員まで	その他のイベント	5,000人又は収容定員50%以内のいずれか大きい方
	感染防止安全計画策定イベント	収容定員まで				
	その他のイベント	5,000人又は収容定員50%以内のいずれか大きい方				
⑩行事等での対策	人と人の距離の確保、大声での会話自粛					
⑪学校等での対応	寮生活・クラブ・部活動の感染対策徹底					
県	〇ワクチンの3回目接種の加速化	〇あいスタ認証店の普及				

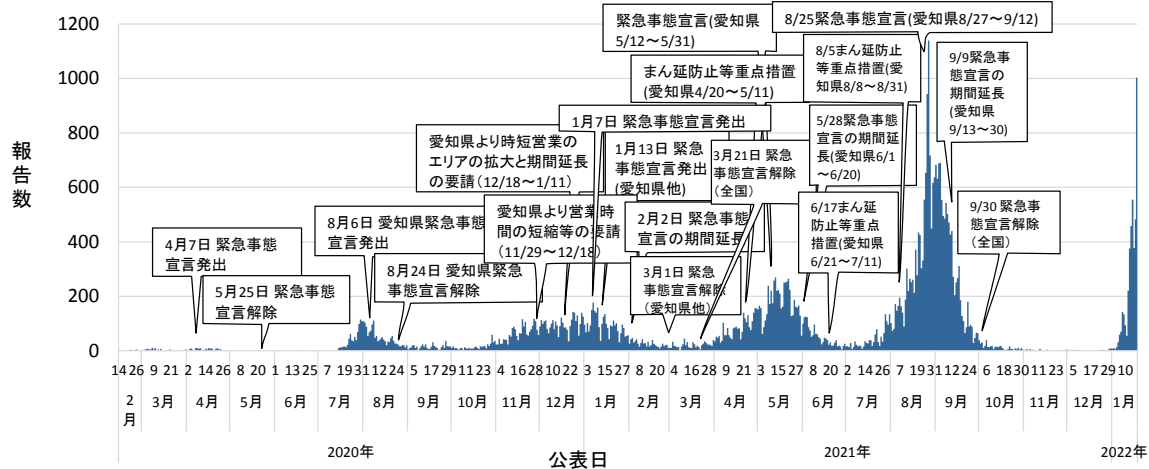
（出典：「嚴重警戒」での感染防止対策（1月15日～）より）

〔新型コロナウイルスワクチンについて〕

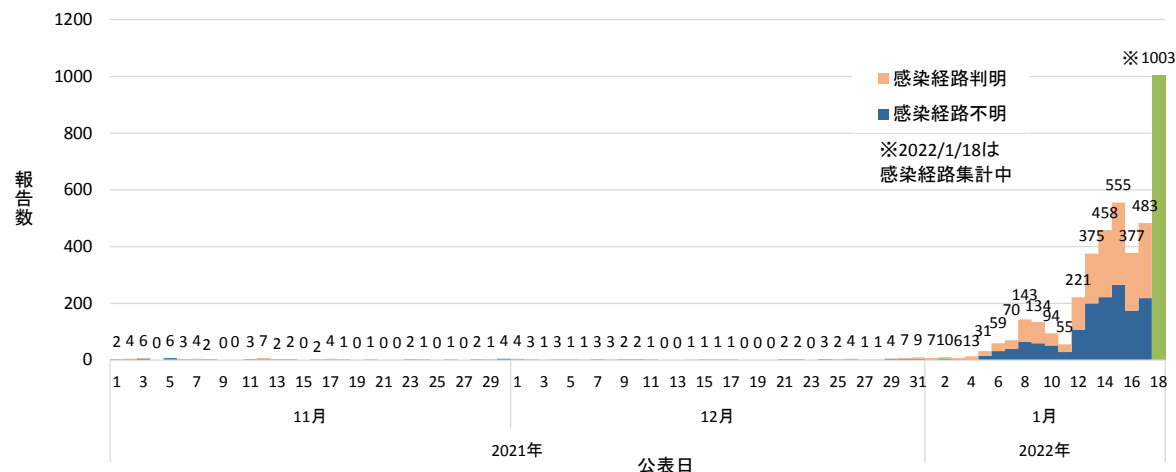
- 本市における新型コロナウイルスワクチン接種に関する情報は下記のリンクをご覧ください。
 - 新型コロナウイルスワクチンに関する情報
<https://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000138548.html>
 - 新型コロナウイルスワクチンの接種について
<https://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000136137.html>
 - 名古屋市新型コロナウイルス感染症対策特設サイト
<https://nagoya-bousai.maps.arcgis.com/apps/Cascade/index.html?appid=5da3d7a15c4842fb8a46ecd93a9e644f>

〔名古屋市における新型コロナウイルス感染症報告数①（令和４年１月１８日現在）〕

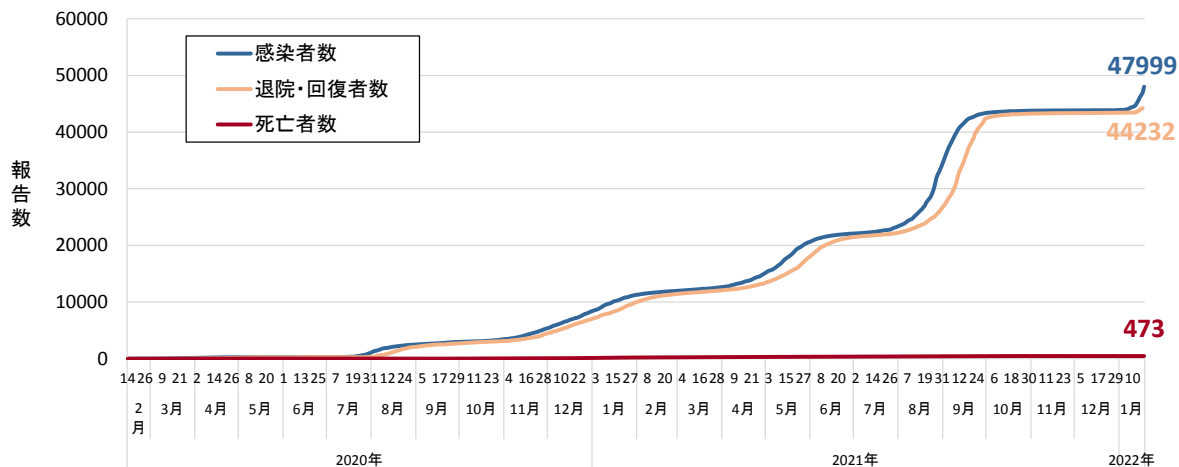
新型コロナウイルス感染者数(名古屋市:2020/2/14～2022/1/18 47999人)



感染者数及び感染経路(名古屋市:2021/11/1～2022/1/18)



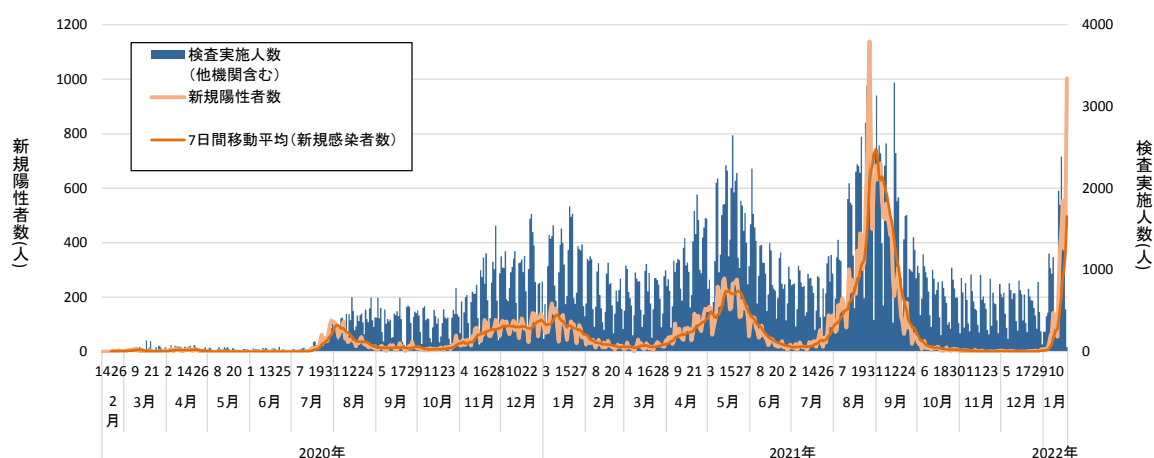
感染者数、退院・回復者数、死亡者数の累計(名古屋市:2022年1月18日現在)



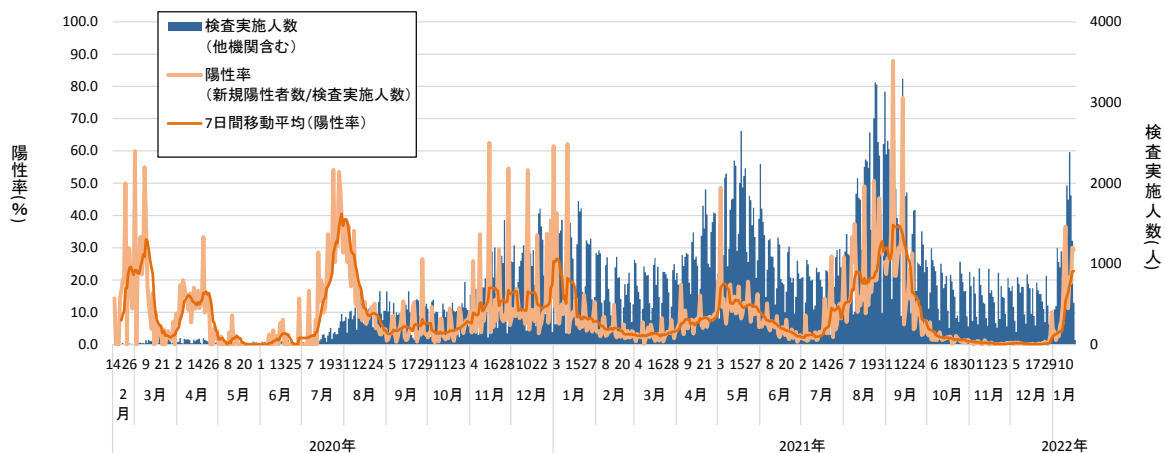
〔名古屋市における新型コロナウイルス感染症報告数②（令和４年１月１８日現在）〕

掲載データは、本市公式ウェブサイト「市内の新型コロナウイルス発生状況」の「名古屋市の陽性患者・検査実施人数データ（2022年１月１８日現在）」を使用しています。検査実施人数は、本市の疑い患者としてPCR検査等を行ったものを掲載しており、名古屋市衛生研究所、名古屋市PCR検査所での実施数のほか、発表時点で本市が把握している他機関の検査数も含まれます。（陽性患者の陰性化確認のための検査は除く。）また、令和２年８月２４日以降は、新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム（G-MIS）により把握した件数等についても掲載しています。掲載している数値については速報値であり、後日修正されることがあります。

新規陽性者数と検査実施人数（名古屋市）



陽性率と検査実施人数（名古屋市）



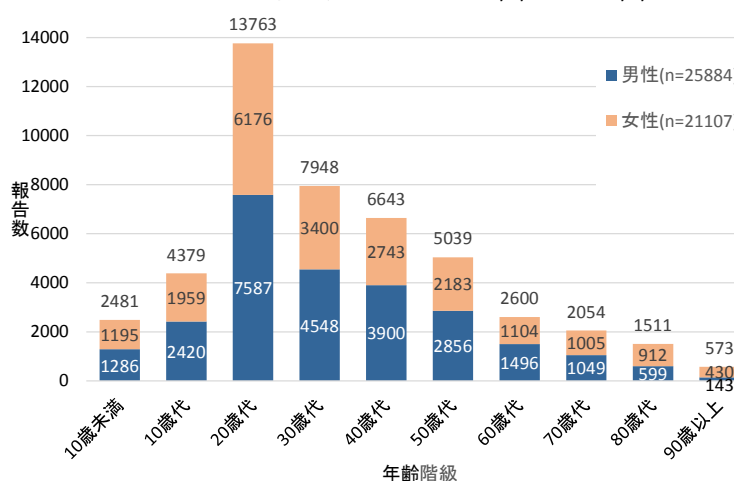
(参考)	2020年												2021年												合計
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
新規陽性者数(人)	24	98	149	6	12	770	1459	439	462	1899	3035	2911	716	629	2449	5533	1498	1253	10880	9150	410	60	63	43905	
検査実施人数(人)	120	1149	1320	835	751	2804	12000	11444	11558	19960	29248	31231	19683	21879	33303	45930	30389	23274	49325	47253	21759	16483	16921	448619	
陽性率	20.00%	8.53%	11.29%	0.72%	1.60%	27.46%	12.16%	3.84%	4.00%	9.51%	10.38%	9.32%	3.64%	2.87%	7.35%	12.05%	4.93%	5.38%	22.06%	19.36%	1.88%	0.36%	0.37%	9.79%	

〔名古屋市における新型コロナウイルス感染症報告数③（令和４年１月１７日現在）〕

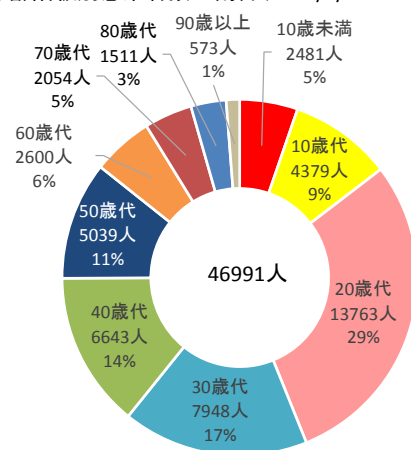
本市記者発表資料より集計。年齢非公表及び調査中の患者を除く。患者の重症度は公表時時点。

令和４年１月１８日発表資料から様式の変更あり、令和４年１月１７日分までの集計。

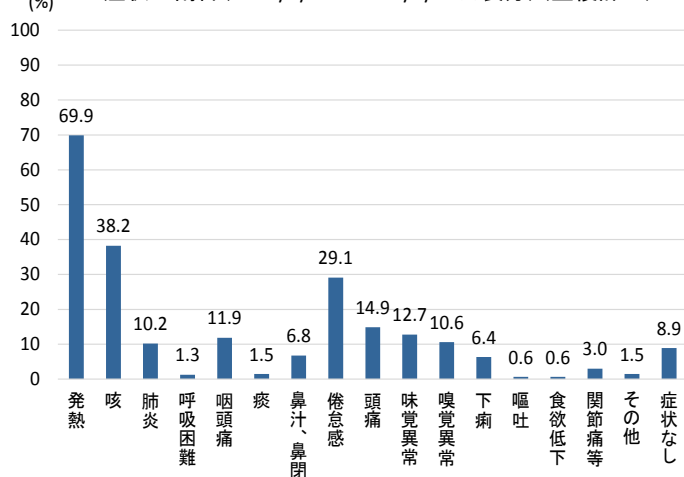
性別・年齢階級別報告数(名古屋市:2020/2/14～2022/1/17)



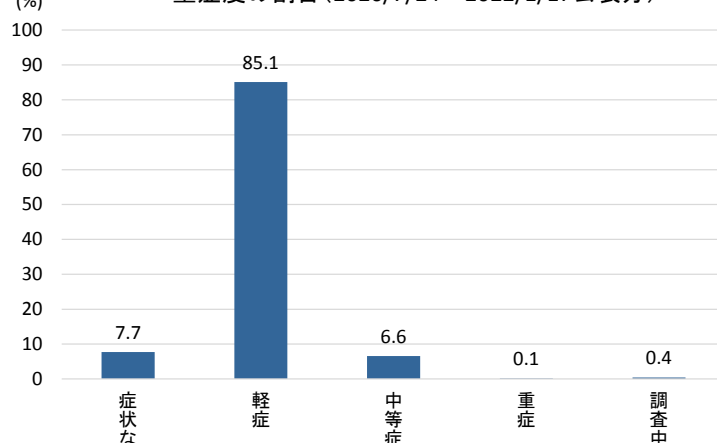
年齢階級別感染者数の割合(2020/2/14～2022/1/17)



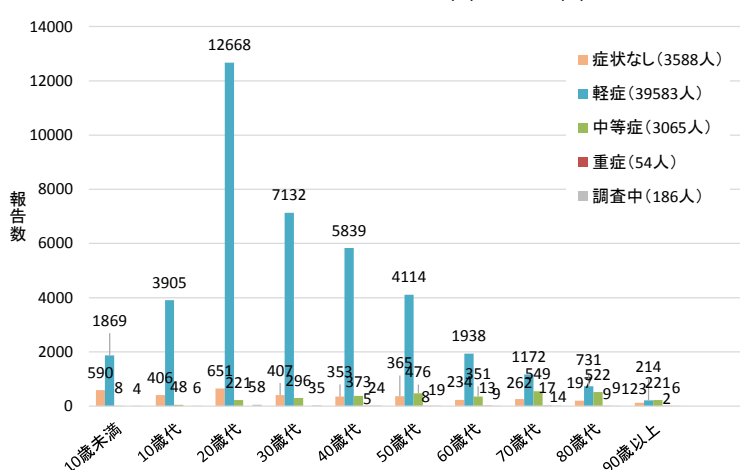
症状の割合(2020/2/14～2020/7/23公表分)(重複計上)



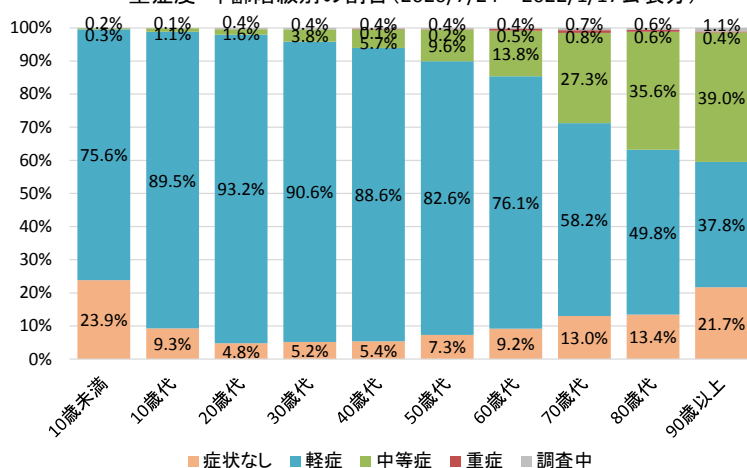
重症度の割合(2020/7/24～2022/1/17公表分)



重症度・年齢階級別感染者数(2020/7/24～2022/1/17表分)



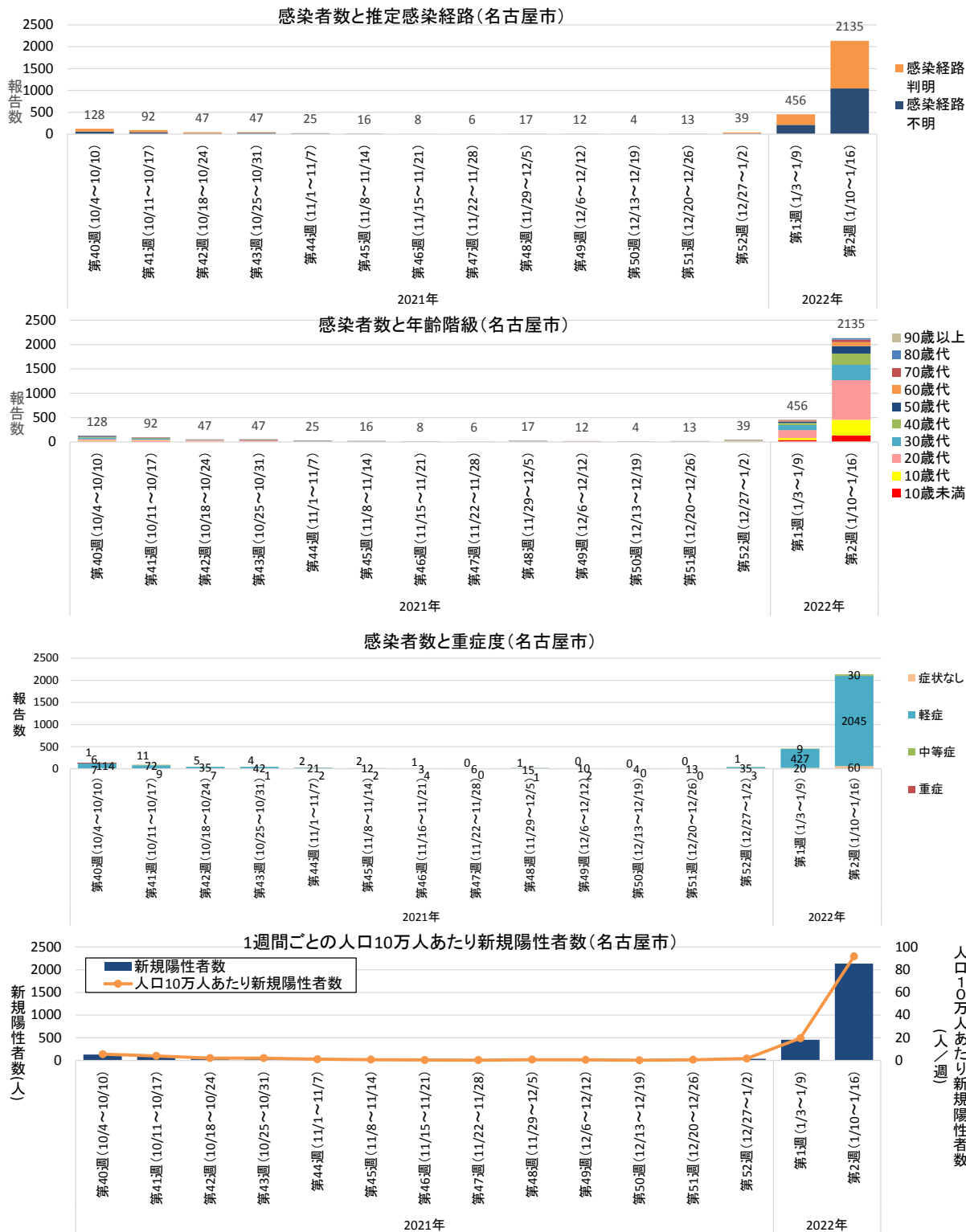
重症度・年齢階級別の割合(2020/7/24～2022/1/17公表分)



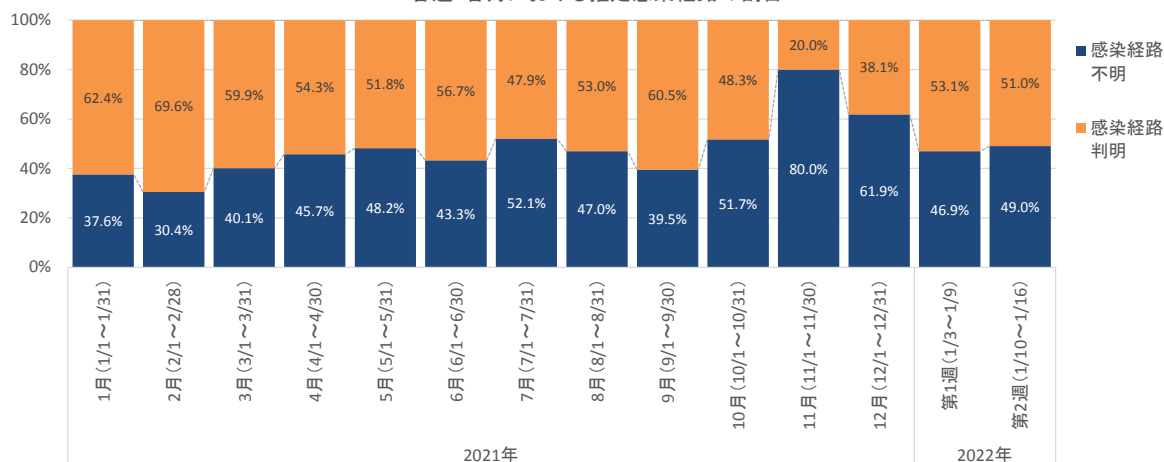
〔名古屋市における新型コロナウイルス感染症報告数④（令和４年１月１８日現在）〕

推定感染経路は本市記者発表資料等を参考に当所にて推定したもの。**報告数は公表日の患者数を集計。**

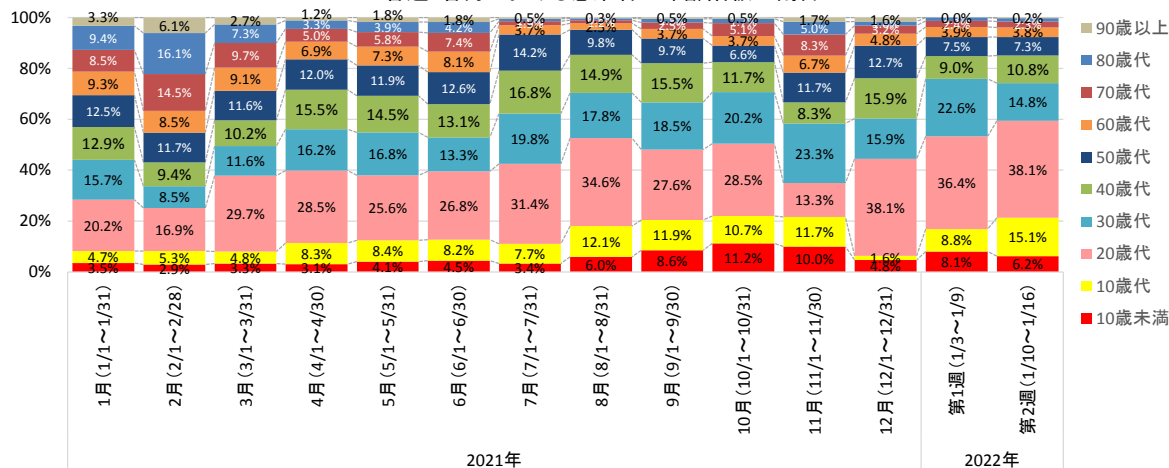
年齢階級は非公表及び調査中の患者を除く。なお、その後の訂正などにより変更される場合があります。



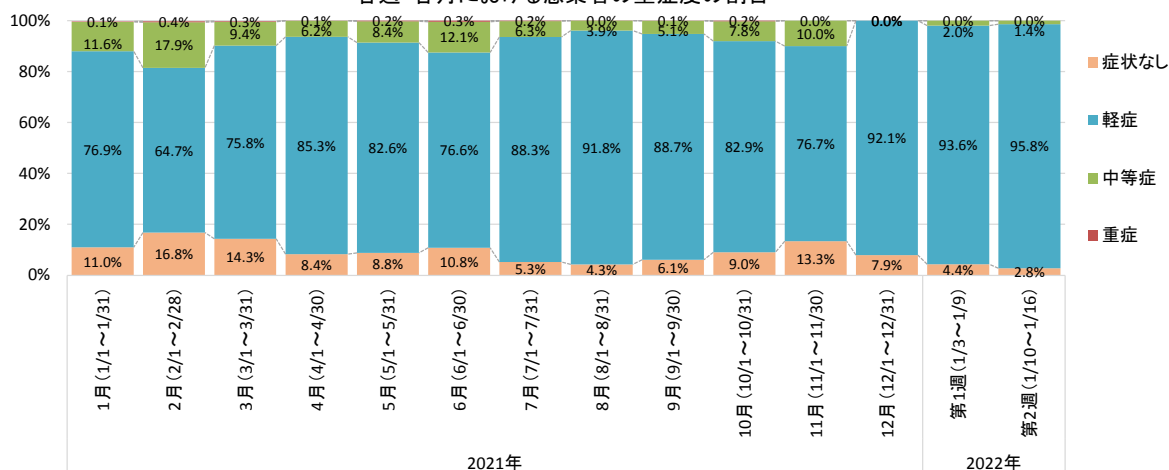
各週・各月における推定感染経路の割合



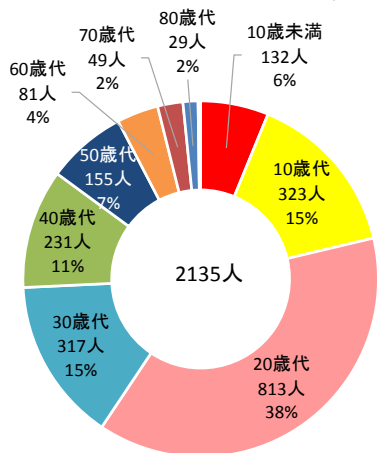
各週・各月における感染者の年齢階級の割合



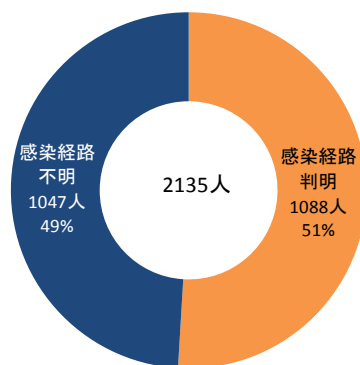
各週・各月における感染者の重症度の割合



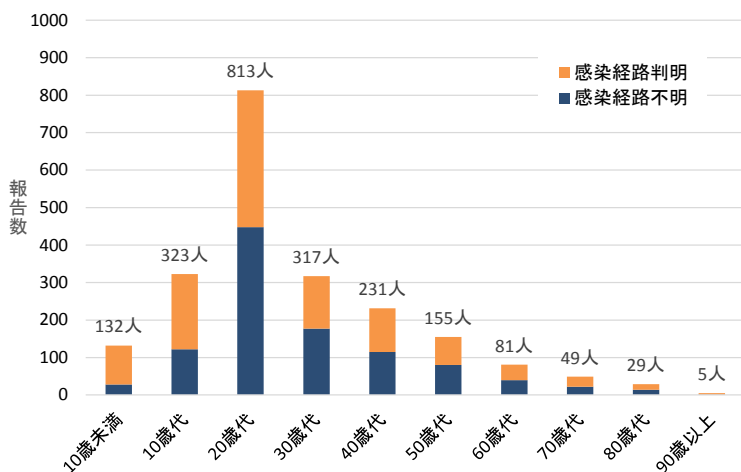
年齢階級別感染者数の割合(第2週:1/10~1/16)



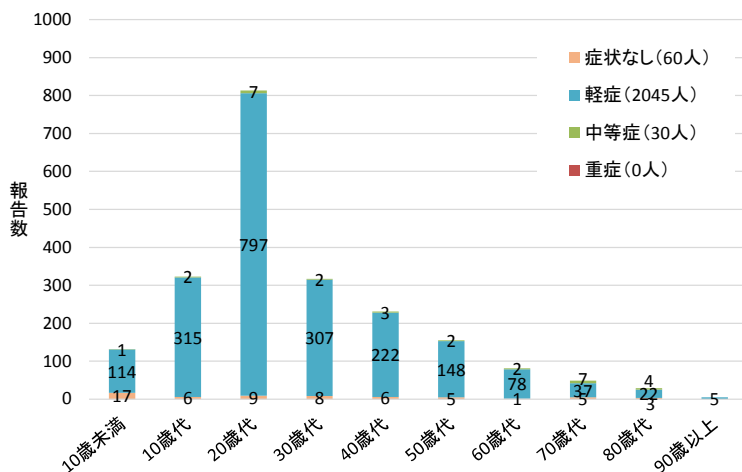
推定感染経路別感染者数の割合(第2週:1/10~1/16)



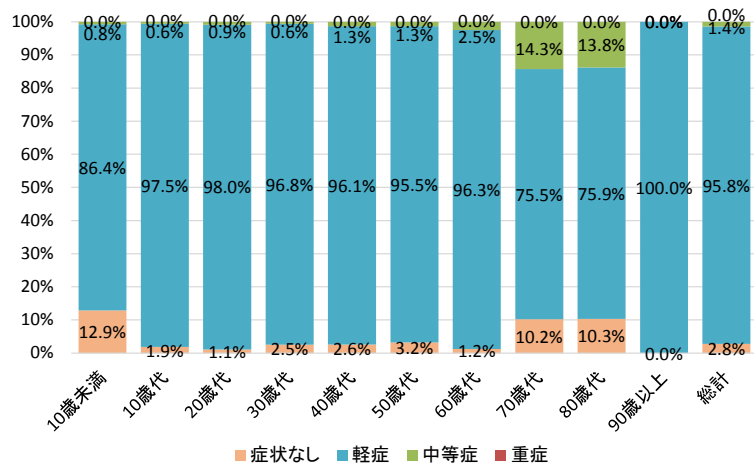
年齢階級と推定感染経路(第2週:1/10~1/16 2135人)



重症度・年齢階級別感染者数(第2週:1/10~1/16)

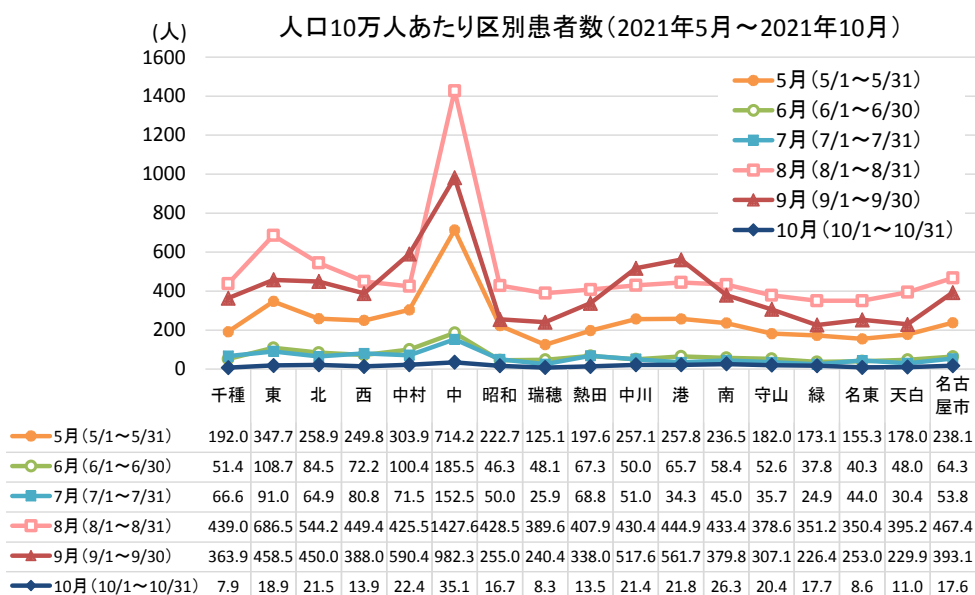
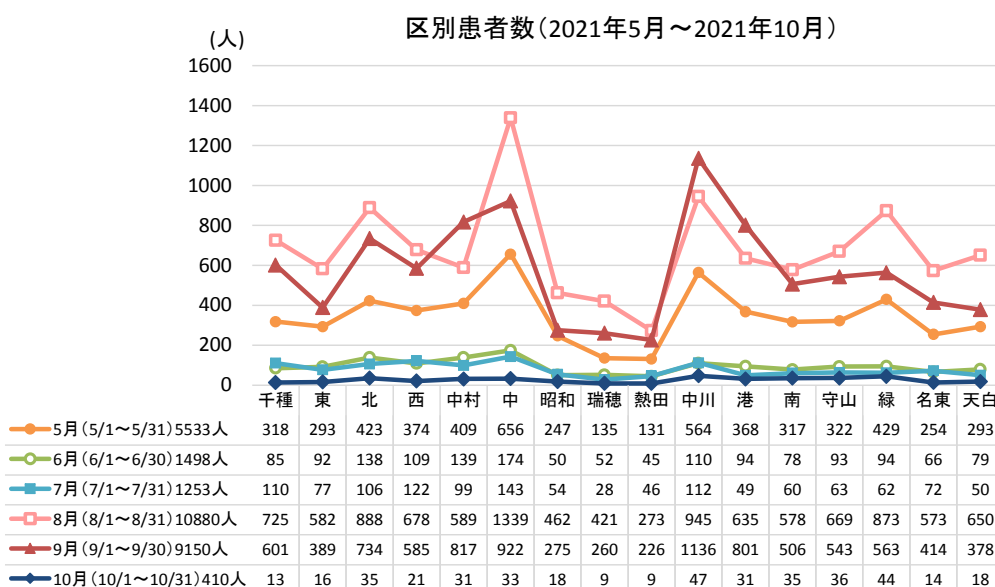


重症度・年齢階級別の割合(第2週:1/10~1/16公表分)



〔名古屋市における新型コロナウイルス感染症報告数⑤〕

掲載データは、本市記者発表資料「令和3年5月～令和3年10月分の区別新規患者数累計」を使用しています。区別患者数は、発表時時点で把握している患者居住区であり、実際の感染エリアであるとは限りません。また、区別患者数については、1週間あたりの発生状況等を踏まえ、プライバシー保護等の観点から掲載を見送る場合がありますが、その後の患者発生動向等を踏まえ、適宜掲載する予定です。令和3年11月及び12月の区別新規患者数は各区10人未満となっています（12月の千種区については16人）。なお、人口10万人あたりの患者数には名古屋市総務局公表による各月1日現在の推計人口を使用しています。

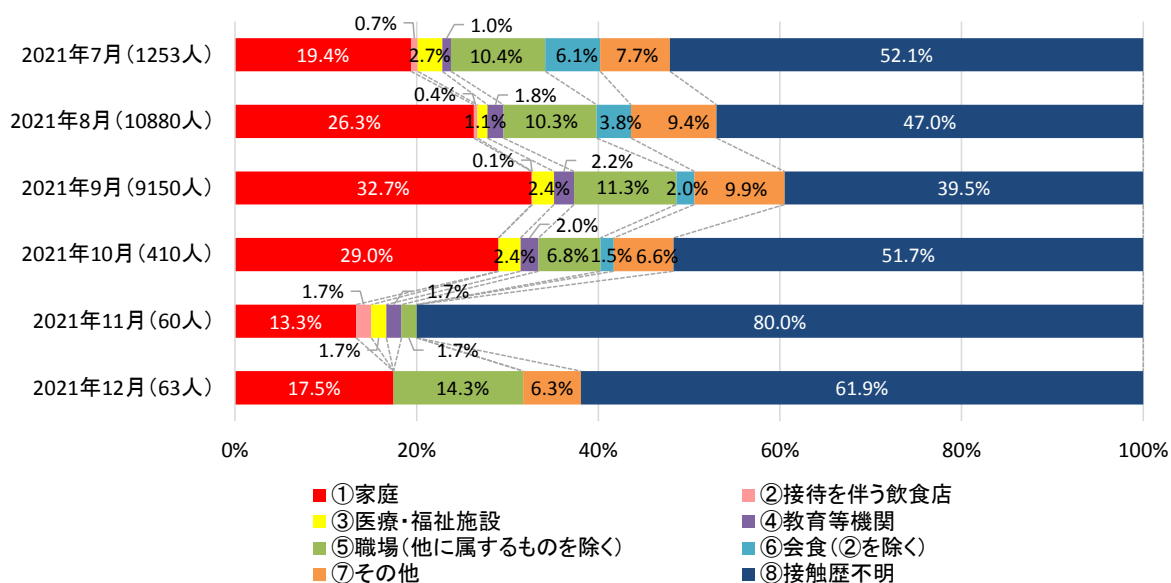


〔名古屋市における新型コロナウイルス感染症報告数⑥〕

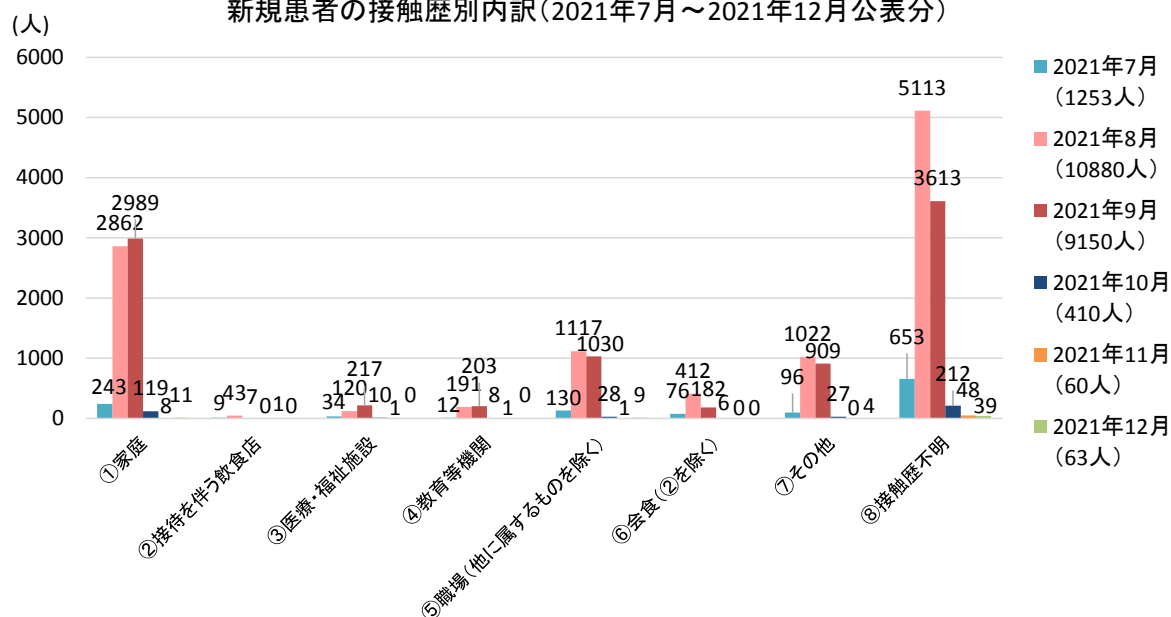
掲載データは、本市記者発表資料「新規患者の接触歴別内訳（令和3年7月～令和3年12月公表分）」を使用しています。この内訳は、本市公表事例（令和3年7月1日～令和3年12月31日の期間に公表の分）について、接触歴ごとに分類、集計したものです。

接触歴の割合の比較では、令和3年12月は「⑧接触歴不明」の割合が全体の61.9%を占めており、「①家庭」、「⑤職場（他の属するものを除く）」及び「⑦その他」での接触は前月と比べて増加しました。「②接待を伴う飲食店」、「③医療・福祉施設」、「④教育等機関」及び「⑥会食（②を除く）」での報告はありませんでした。

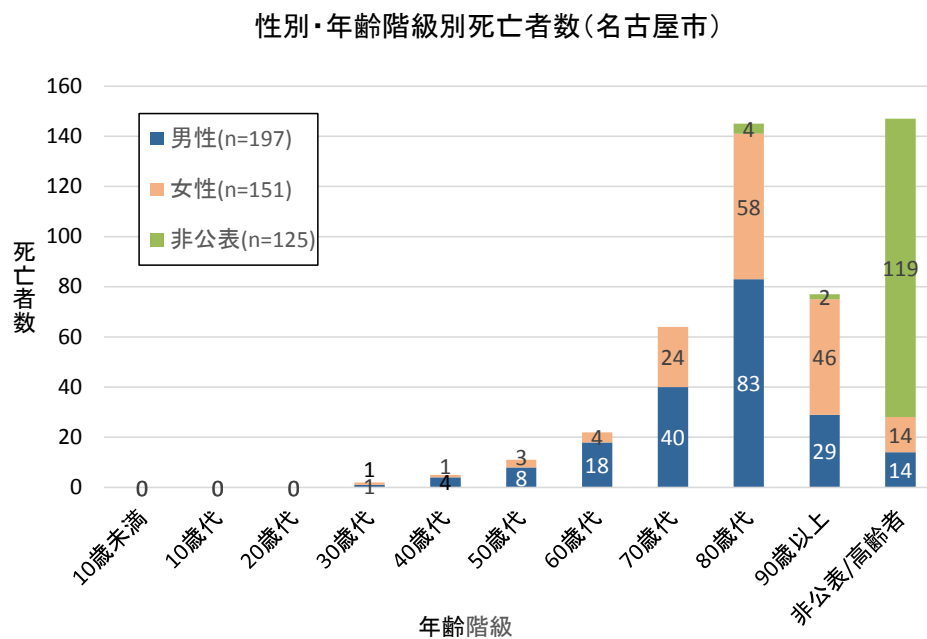
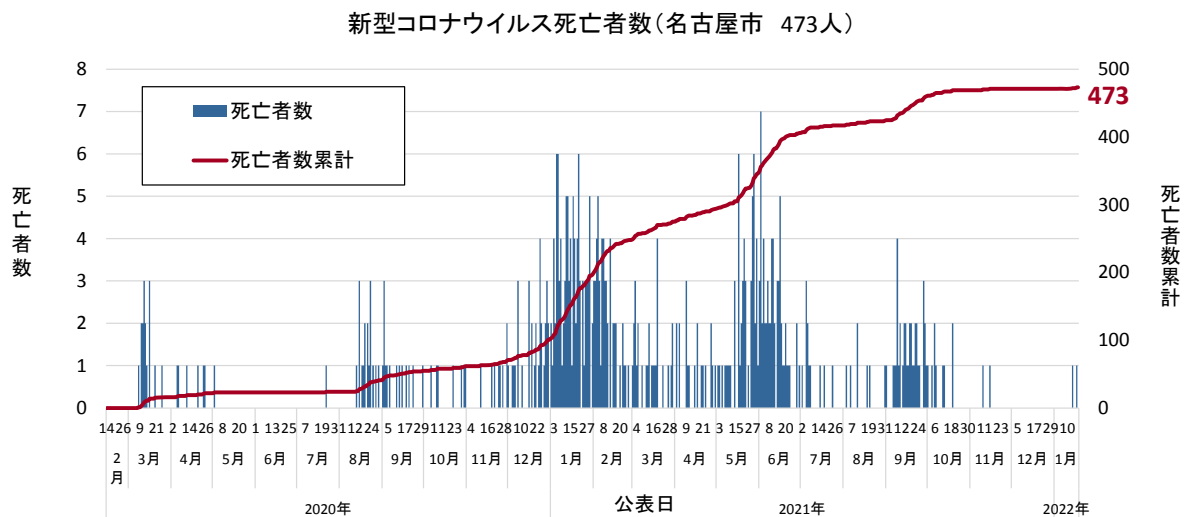
新規患者の接触歴別内訳の割合（2021年7月～2021年12月公表分）



新規患者の接触歴別内訳（2021年7月～2021年12月公表分）



〔名古屋市における新型コロナウイルスに関連した死亡者（令和４年１月１８日現在）〕
 令和４年１月１８日現在、新型コロナウイルスに関連した死亡者は名古屋市内４７３人となっています。令和４年１月には２人の死亡者が報告されています。



(参考)	2020年												2021年												合計
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
死亡者数 (人)	0	16	6	1	0	1	17	14	7	8	31	96	51	27	19	52	60	11	7	36	9	2	0	471	
新規陽性 者数(人)	24	98	149	6	12	770	1459	439	462	1899	3035	2911	716	629	2449	5533	1498	1253	10880	9150	410	60	63	43905	

◆本市の状況

〔定点把握感染症の発生動向〕

- ・ 特記することなし。

〔1 類～5 類全数把握感染症の届出〕

診断週	感染症 の分類	疾患	発生数	発生の概要
2022年 第2週	2 類	結核	9	女性、81 歳、リンパ節結核 女性、91 歳、結核性胸膜炎 男性、84 歳、肺結核 男性、91 歳、肺結核 女性、81 歳、肺結核 男性、67 歳、無症状病原体保有者 女性、52 歳、無症状病原体保有者 女性、46 歳、無症状病原体保有者 男性、51 歳、無症状病原体保有者
2022年 第2週	新型インフル エンザ等	新型コロナウイルス感染症	2522	下に別記載
2022年 第2週	5 類	梅毒	4	男性、56 歳、早期顕症梅毒 1 期 男性、41 歳、早期顕症梅毒 1 期 男性、36 歳、早期顕症梅毒 1 期 男性、53 歳、早期顕症梅毒 1 期

※ 感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを表示。

（報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります）

〔新型コロナウイルス感染症〕（新型インフルエンザ等感染症）

重症度（縦） 年代（横）	10 歳 未満	10	20	30	40	50	60	70	80	90	総計
症状なし	19	7	14	11	7	5	1	4	4	1	73
軽症	138	382	945	348	255	173	103	42	24	8	2418
中等症	1	2	7	2	3	1	3	6	5	0	30
死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
総計	158	391	966	361	265	179	107	52	33	10	2522

NIDWR Nagoya Infectious Diseases Weekly Report

報告日が遅れたため先週号までに掲載されなかった 1 類から 5 類全数報告感染症。

診断週	感染症の分類	疾患	発生数	発生の概要
2022 年 第 1 週	2 類	結核	1	男性、81 歳、肺結核
2022 年 第 1 週	5 類	後天性免疫不全症候群	2	男性、48 歳、無症状病原体保有者、感染経路：同性間性的接触、感染地域：国内 女性、42 歳、無症状病原体保有者、感染経路：異性間性的接触、感染地域：国内
2022 年 第 1 週	5 類	梅毒	2	男性、49 歳、早期顕症梅毒 1 期 男性、38 歳、早期顕症梅毒 1 期

※ 感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを表示。

〔2022 年 1 類～5 類全数把握感染症の届出報告数の累計〕

感染症の分類	疾患	累計
1 類感染症	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、他	0
2 類感染症	急性灰白髄炎	0
2 類感染症	結核（潜在性結核感染症を含む）	18（6）
2 類感染症	ジフテリア	0
2 類感染症	重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る）	0
2 類感染症	中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る）	0
2 類感染症	鳥インフルエンザ（H5N1）	0
2 類感染症	鳥インフルエンザ（H7N9）	0
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和 2 年 1 月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。） ※令和 3 年 2 月 13 日から	3067
3 類感染症	コレラ	0
3 類感染症	細菌性赤痢	0
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0
3 類感染症	腸チフス	0
3 類感染症	パラチフス	0

NIDWR

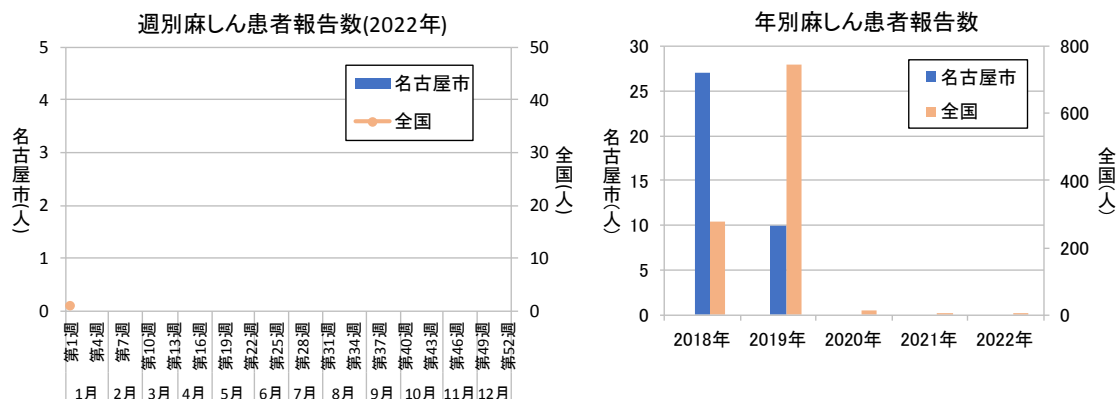
Nagoya Infectious Diseases Weekly Report

5 類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1
5 類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1
5 類感染症	後天性免疫不全症候群	2 (2)
5 類感染症	梅毒	9 (2)
5 類感染症	百日咳	1

累計は 2022 年第 1 週からの診断週による累計、() 内は無症状病原体保有者累計数を再掲、[] 内は疑似症累計数を再掲、
【 】内は感染症死亡者の死体累計数を再掲、〔 〕内は感染症死亡疑い者の死体累計数を再掲、〈 〉内は後天性免疫不全症候
群の「その他」累計数を再掲。対象疾患が多いため、4 類及び 5 類感染症は報告のあった疾患のみを掲載。

(報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります)

〔名古屋市の麻しん報告数：2022年1月19日作成〕

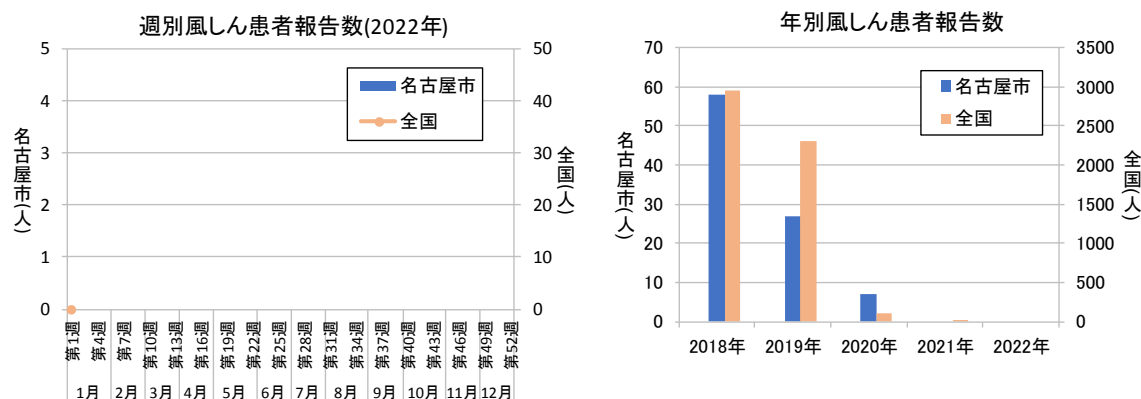


麻しん	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
名古屋市	11	6	19	5	1	20	0	1	1	27	10	0	0	0※1
愛知県	29	32	32	39	25	46	0	5	1	37	41	2	1	0※2
全国	732	447	439	283	229	462	35	165	186	279	744※3	13※3	6※3	1※2

※1 第2週(1月16日)まで ※2 第1週(1月9日)まで ※3 報告数は速報値

(報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります)

〔名古屋市の風しん報告数：2022年1月19日作成〕



風しん	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
名古屋市	1	0	7	38	191	7	2	4	0	58	27	7	0	0※1
愛知県	10	3	13	97	375	22	13	20	3	118	59	8	0	0※2
全国	147	87	378	2386	14344	319	163	126	91	2941	2306※3	100※3	12※3	0※2

※1 第2週(1月16日)まで ※2 第1週(1月9日)まで ※3 報告数は速報値

(報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります)

〔愛知県麻疹・風しん患者調査事業について〕

平成 20 年 1 月 1 日から、麻疹・風しんは全数把握対象疾患となりましたが、愛知県内では、感染症法に基づく届出では把握できない情報を得るため、医師会と協力して「愛知県麻疹・風しん患者調査事業」を実施しており、名古屋市も参加しています。調査結果については下記のリンク先（愛知県衛生研究所ホームページの中のコンテンツ <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/msl/msl.html>）をご覧ください。

〔定点医療機関からの情報〕

定点医療機関から報告されたコメント情報はありませんでした。

◆2022 年第 2 週 患者報告数（疾病区別）、定点あたり患者報告数（疾病区別）、年齢階層別患者報告数（疾病別）

患者報告数（名古屋市）

2022年第2週（2022年1月10日～1月16日）

疾患 \ 区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	計	前週比	過去比*
☆ インフルエンザ		1															1		0.0
○ RSウイルス感染症		1				3				1		2					7	1.4	0.8
○ 咽頭結膜熱		1				4				1		1			2		9	0.8	0.8
○ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1		1	11			6				1						20	1.3	0.4
○ 感染性胃腸炎	15	5	18	61	8	18	4			40	7	6	16	26	13	14	251	1.4	1.3
○ 水痘															3		3	1.5	0.1
○ 手足口病	2					1							1		6		10	1.1	2.1
○ 伝染性紅斑																	0		0.0
○ 突発性発疹				6						2			2	2	1	1	14	1.2	1.4
○ ヘルパンギーナ	1					1											2	1.0	2.0
○ 流行性耳下腺炎										2					1		3	1.5	3.0
△ 急性出血性結膜炎																	0		
△ 流行性角結膜炎	1																1	0.5	0.5
◇ 細菌性髄膜炎																	0		
◇ 無菌性髄膜炎			1														1		
◇ マイコプラズマ肺炎																	0		0.0
◇ クラミジア肺炎																	0		
◇ 感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）																	0		
計	20	8	20	78	8	27	10	0	0	46	8	9	19	28	26	15	322		
																			*過去3年の同週の平均値との比
☆ インフルエンザ定点数	5	4	5	4	5	4	5	5	4	4	4	4	5	4	4	4	70		
○ 小児科定点数	5	4	5	4	5	4	5	5	4	4	4	4	5	4	4	4	70		
△ 眼科定点数	1		1	1	1			1	1	1		1		1	1	1	11		
◇ 基幹定点数			1				1			1							3		

☆○△◇は定点種別を示す。

のセルは、該当疾病の定点医療機関のない区を示す。

定点あたり患者報告数、および流行警報・注意報発生状況（名古屋市）

2022年第2週（2022年1月10日～1月16日）

疾患 \ 区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	平均
インフルエンザ		0.3															0.0
RSウイルス感染症		0.3				0.8				0.3			0.5				0.1
咽頭結膜熱		0.3				1.0				0.3			0.3		0.5		0.1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.2		0.2	2.8			1.2					0.3					0.3
感染性胃腸炎	3.0	1.3	3.6	15.3	1.6	4.5	0.8			10.0	1.8	1.5	3.2	6.5	3.3	3.5	3.6
水痘															0.8		0.0
手足口病	0.4					0.3									1.5		0.1
伝染性紅斑																	
突発性発疹				1.5						0.5				0.4	0.5	0.3	0.2
ヘルパンギーナ	0.2					0.3											0.0
流行性耳下腺炎										0.5					0.3		0.0
急性出血性結膜炎																	
流行性角結膜炎	1.0																0.1

警報対象疾患	流行発生警報		流行発生注意報 基準値
	開始基準値	終息基準値	
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	—
感染性胃腸炎	20	12	—
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	—
伝染性紅斑	2	1	—
ヘルパンギーナ	6	2	—
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	—
流行性角結膜炎	8	4	—

流行警報・注意報について

■ **太字の数字** は流行発生警報

■ **斜体の数字** は流行発生注意報

■ 警報及び注意報の発生は、厚生労働省の感染症発生動向調査における警報発生システムの基準値（左表）に準拠しています。なお基準値は、変更される場合や当センターの判断で、独自の設定に変更する場合があります。

■ この警報及び注意報は、感染症発生動向調査に関わる専門家の対策立案を支援するためのものです。詳しい目的、利用法等については当情報センターにご連絡ください。

NIDWR Nagoya Infectious Diseases Weekly Report

年齢階層別患者報告数(名古屋市)

2022年第2週(2022年1月10日～1月16日)

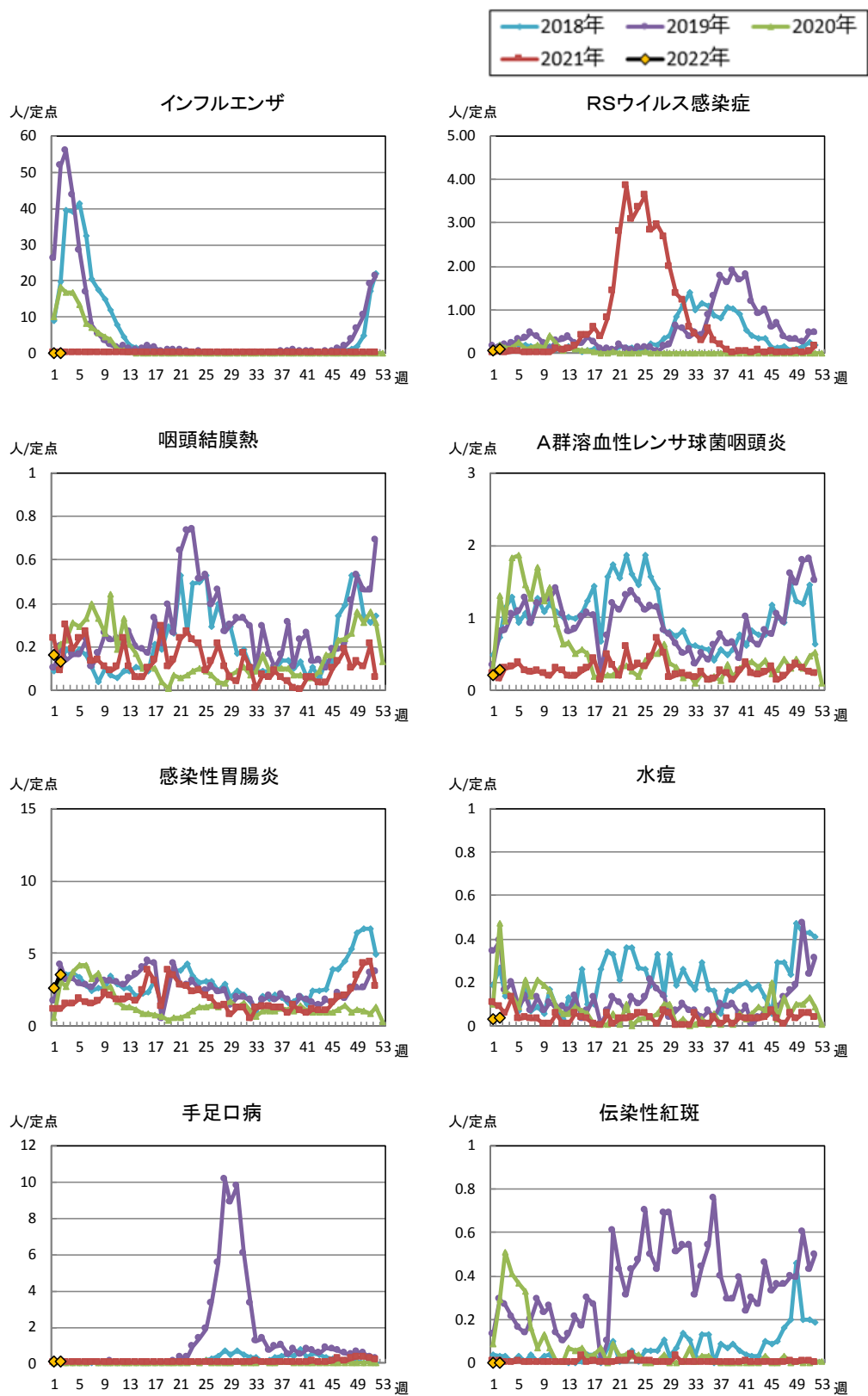
疾患 \ 年齢階層	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
インフルエンザ																1				

疾患 / 年齢階層	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20歳以上
RSウイルス感染症	1	1	2	1	1	1								
咽頭結膜熱			2	4	2	1								
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			4		3		1	2			1	2		7
感染性胃腸炎	2	10	45	32	42	30	30	13	7	3	5	7		25
水痘							1				1	1		
手足口病			7	3										
伝染性紅斑														
突発性発しん		2	9	2	1									
ヘルパンギーナ			1	1										
流行性耳下腺炎							1				1	1		

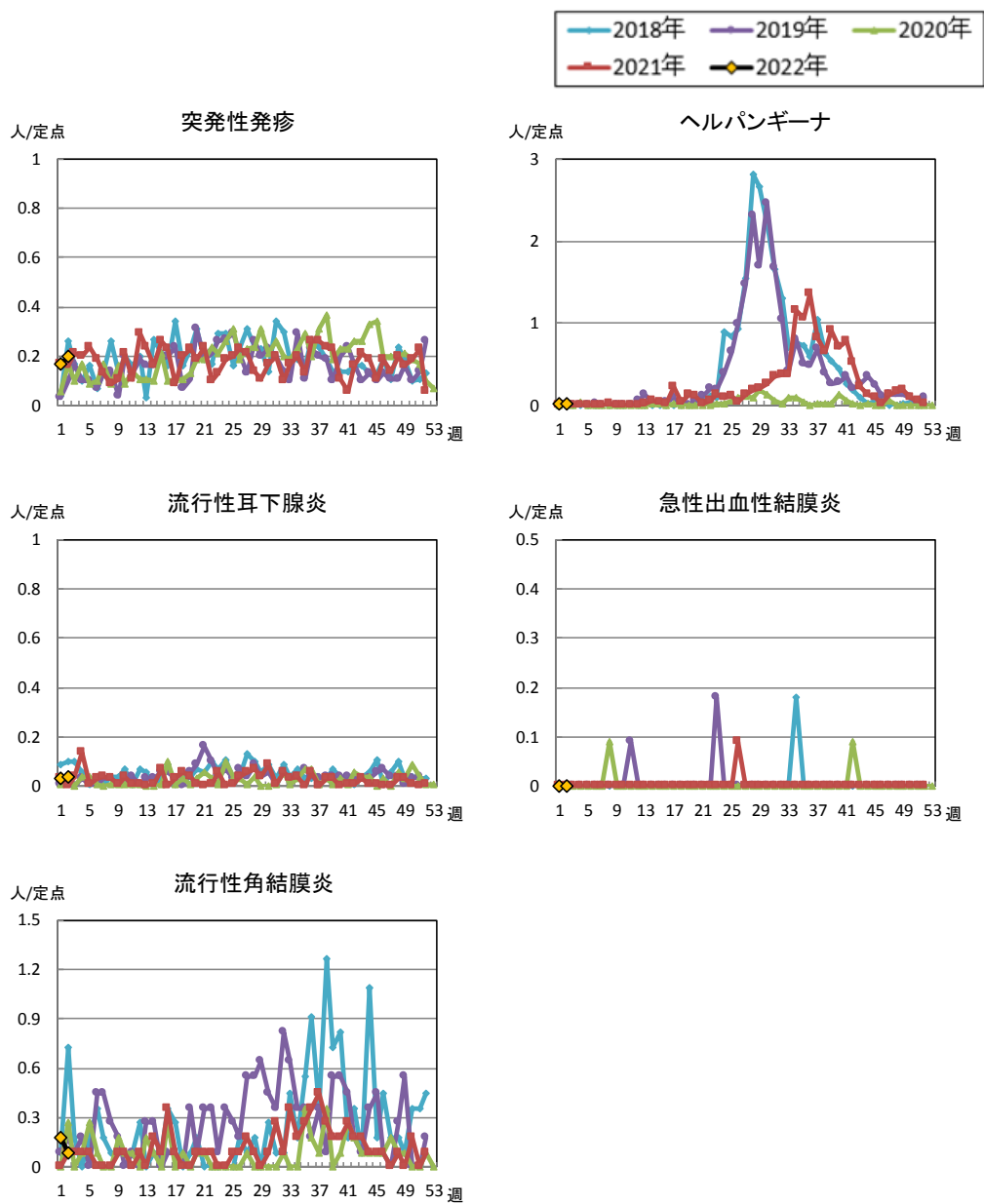
疾患 / 年齢階層	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上
急性出血性結膜炎																			
流行性角結膜炎															1				

疾患 / 年齢階層	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上
細菌性髄膜炎																
無菌性髄膜炎													1			
マイコプラズマ肺炎																
クラミジア肺炎																
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)																

◆小児科・インフルエンザ・眼科定点医療機関からの
定点あたり患者報告数の推移グラフ(1) 2022年第2週まで



◆小児科・インフルエンザ・眼科定点医療機関からの
 定点あたり患者報告数の推移グラフ(2) 2022年第2週まで



◆ 基幹病院定点月報の集計結果〔2021 年 12 月分〕

基幹定点数：3（西部医療センター(北)、名古屋第二十字病院(昭和)、名古屋掖済会病院(中川)）

表1.基幹定点報告、区別患者報告数(名古屋市)

2021年12月

疾患 / 区	北	昭和	中川	計
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1			1
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症				0
薬剤耐性緑膿菌感染症				0
計	1	0	0	1

表2.基幹定点報告、年齢階級別報告数(名古屋市)

2021年12月

疾患 / 年齢階級	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90歳-	計
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症										1	1
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症											0
薬剤耐性緑膿菌感染症											0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

◆ 性感染症について〔性感染症定点把握、2021 年 12 月分〕

性感染症定点数：15（泌尿器科系：8、産婦人科系：7）

報告された患者数を性別でみると、男性では性器クラミジア感染症、淋菌感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマの順に多く、女性では性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマおよび淋菌感染症の順に多く報告がありました。今月の性感染症の報告数は男性 160 人、女性は 33 人でした。（表 2、図 1 参照）

2021 年 12 月分を年齢階級別に見ると、男性の性器クラミジア感染症は 15 歳以上の全ての年齢階級で報告があり、性器ヘルペスウイルス感染症は 0 歳から 39 歳および 45 歳以上の年齢階級で報告がありました。尖圭コンジローマは 20 歳から 44 歳および 55 歳以上の年齢階級で報告があり、淋菌感染症は 15 歳以上の全ての年齢階級で報告がありました。女性では性器クラミジア感染症は 20 歳から 39 歳の年齢階級で報告があり、性器ヘルペスウイルス感染症は 20 歳から 29 歳、40 歳から 44 歳および 55 歳以上の年齢階級で報告がありました。尖圭コンジローマは 20 歳から 29 歳および 55 歳以上の年齢階級で報告があり、淋菌感染症は 20 歳から 24 歳および 30 歳から 34 歳の年齢階級で報告がありました（表 2、図 2 参照）。

表1. 性感染症区別患者報告数(名古屋市)

2021年12月

疾患 / 区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	計
性器クラミジア感染症	2		18		7	34	6	2		9	1	1		6	2		88
性器ヘルペスウイルス感染症			9	1		9	1			3				4		1	28
尖圭コンジローマ			3		3	6	1			5				1			19
淋菌感染症			15	1	2	20	4			7				7	1	1	58
計	2		45	2	12	69	12	2		21	4	1		18	3	2	193

STD定点数	1		2	1	1	2	1	1		1	1	1		1	1	1	15
--------	---	--	---	---	---	---	---	---	--	---	---	---	--	---	---	---	----

のセルは、該当疾病の定点医療機関のない区を示す。

表2. 性感染症年齢階級別患者報告数(名古屋市)

2021年12月

疾患 / 年齢階級	性別	0-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55歳-	計
性器クラミジア感染症	男性		6	19	13	8	8	1	7	6	2	70
	女性			8	6	2	2					18
性器ヘルペスウイルス感染症	男性	1	1	5	2	1	2		4	3	2	21
	女性			2	2			2			1	7
尖圭コンジローマ	男性			2	4	3	2	2			2	15
	女性			1	2						1	4
淋菌感染症	男性		3	15	11	10	2	5	3	3	2	54
	女性			2		2						4
計	男性	1	10	41	30	22	14	8	14	12	8	160
	女性			13	10	4	2	2			2	33

図1. STD各感染症が総報告数に占める割合(2021年12月)

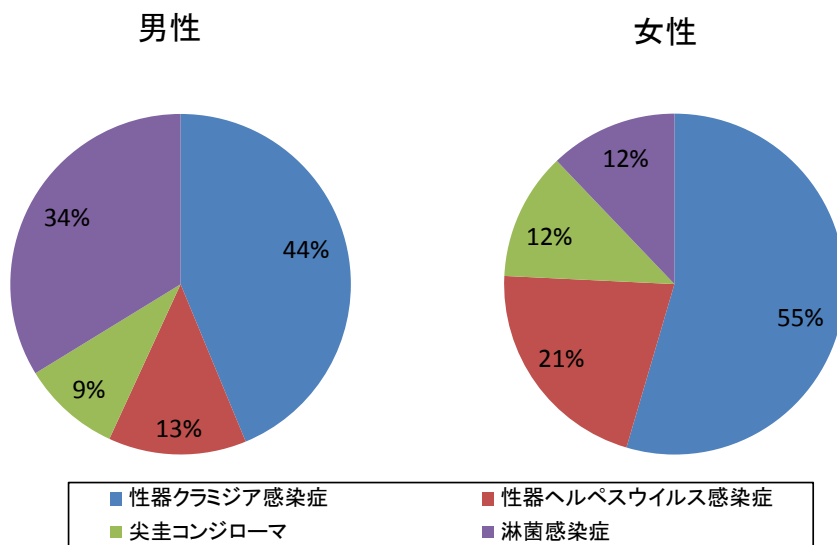


図2. 各STDの性別・年齢階級別の定点あたり報告数(2021年12月)

